

平成 25 年 3 月 27 日
環境部地域エネルギー対策担当

第 4 回 杉並区地域エネルギービジョン懇談会 議 事 要 旨

日 時	平成25年3月27日(水)18:30~20:30
会 場	杉並区役所西棟6階 第4会議室
出席委員	五十音順、敬称略(◎印は座長、○印は副座長) 浅岡 八枝子、石井 敏康、遠藤 雅晴、小林 義雄、鈴木 伸隆、 高口 洋人、西田 穰、八方 淑夫、○前川 耀男 ※欠席 ◎柏木 孝夫、鈴木 廣美、柳井 薫
議 事	1 第3回杉並区地域エネルギービジョン懇談会議事録(案)の確定 2 (仮称)杉並区地域エネルギービジョンたたき台について 3 その他
配布資料	(仮称)杉並区地域エネルギービジョンたたき台 (仮称)杉並区地域エネルギービジョンたたき台(概要版) (仮称)杉並区地域エネルギービジョン資料編 第3回杉並区地域エネルギービジョン懇談会議事録(案) 区民意見反映手続の実施について 【石井委員提供資料】総合資源エネルギー調査会 総合部会 第1回 会合 資料5 主な論点/我が国のエネルギー情勢

■開会

傍聴については、4名の申し出があり、委員一同の了承を得た。

■議事

(1) 議事録の確定

第3回杉並区地域エネルギービジョン懇談会議事録案について、了承を得た。

(2) (仮称)杉並区地域エネルギービジョンたたき台について

たたき台について事務局から説明を行い、その後、各委員からの意見を聴取した。

C委員	<p>区民意見の反映ということで丁寧にされていると思うが、アイデア募集やアンケートで出された意見をビジョン案にどのように反映しているのか。</p>
事務局	<p>例えば「商店街のアーケードに太陽光発電を設置してはどうか」という意見をいただいた。これは以前に事務局がアイデアのひとつとして提案した「区民出資型による再生可能エネルギー整備の仕組みづくり」において、太陽光発電パネルが設置可能な場所を募集し、産業振興部門と連携して、事業所や商店街等に設置場所の提供を働きかけていくという内容と同じだ。また、電力の自由化が遅れるようであれば、電力構造改革特区などを申請して、杉並清掃工場の余剰電力が概算で約7千世帯分は出る見込みであるので、希望する近隣世帯が個別契約するようなことも事務局で考えていたところ、「スマートコミュニティ特区の申請をしてほしい」という意見もあり、事務局と同じ思いでいてくださる方が多いなと実感している。</p> <p>(p. 22)「重点事項1 災害時の避難・救援拠点における必要最低限のエネルギー確保」について、どの施設から重点的に実施するのかということがあったが、アンケートの結果、(p. 17)「区が導入を促進すべき再生可能エネルギーの設置建物優先順位」で公共施設を優先すべきという意見が多かったため、公共施設の防災対策に重点を置くべきだろうと考えている。</p>
I委員	<p>【配布資料の説明】 配布した資料は、3月15日に開催された総合部会 第1回会合の資料である。一昨年10月から基本問題委員会が33回開催され、エネルギーをどうするか議論されていた。政権が代わり、ゼロベースで見直すこととなり、格を上げて総合部会で議論することとなった。委員も若干の変更があり、25名から15名に絞られた。議長は基本問題委員会から引き続き、新日鐵住金(株)相談役の三村様が務めている。</p> <p>本資料には、最近の環境の変化について5項目挙げている。また、エネルギーの各段階を「生産・調達」「流通」「消費」の3つに分けて議論している。「我が国のエネルギー情勢」の図にあるように、</p>

生産・調達では、発電所に関わること、シェールガスやメタンハイドレートのような燃料資源に関することなどを含めて考えていこうということだ。流通では、主にエネルギーの流通として、電力システムや石油・ガスのサプライチェーン、パイプラインなどについてピックアップしている。また、消費については、第一に省エネ・節電、供給側に合わせて需要側で対応するデマンドリスポンスであるエネルギーマネジメントシステムやスマートコミュニティ、本ビジョンでも検討されている分散型エネルギーなどについて、議論していくことになっている。

横断的な課題としては、環境問題、国際協力、国民とのコミュニケーションの在り方等が挙げられている。

このような視点で、今年度いっぱいを目途にエネルギー基本計画を策定する予定である。

電力システム改革の工程表を最終ページに付けている。これは、旧政権時代から開催されている電力システム改革専門委員会（最終回2月8日）において、2月15日に発表された電力システム改革の報告書の中のものである。内容は、3段階を経て、電力システム改革を進めていくという案である。第1段は「広域系統運用機関の設立」である。現在、沖縄を除く9電力の中には、ピーク時に効率の悪い発電所を稼働させて電力供給している電力会社がある一方で、余裕のある電力会社では、効率の良い機器だけで供給を賄っている。日本全体で見ると非合理的である。効率よく、コストの安い発電所から順番に動かすためには、9電力の枠組みを超えた今よりも広い範囲で需給を運用し、最適化を図っていく必要がある。2015年を目途に広域系統運用機関を設立し、大震災以降明らかになった問題の解決を図るとするのが第1段である。第2段は小売参入の自由化である。現在、電力の大口については自由化されているが、小売も全面自由化し、家庭用も自由化しようというものである。しかし、これはある程度競争が確保されないと、突然価格が上がる可能性があるため、一部、料金規制の経過措置を残そうとしている。第3段は、送配電の中立化で、送配電部門を法的に分離し、様々な人たちが系

	<p>続にアクセスでき、需要家に全面自由化で電力を売ることができるシステムを実現できれば、料金規制を撤廃して自由な電力のやり取りを可能とする。このような3段階で電力システム改革を進める。最終段階は2018年～2020年を目途としている。家庭用電力の全面自由化は、この工程表によれば2016年になる。今年度を目途に電気事業法の改正を行い、このような段階を実現する方向で進めていくというのが、電力システム改革専門委員会から出された内容である。</p> <p>関連した話では、昨年3月に省エネルギー法の改正が閣議決定されたが、前国会では採択されなかった。恐らく今月中または来月には、省エネ法の改正が国会を通るのではないかとされている。省エネ法の改正のポイントは大きく2つある。1つは、断熱の強化。特に窓を中心とした壁面の断熱強化。2つめは、ピークシフトを進めるために、ピーク時の節電を通常時の節電よりも高く評価するシステムの導入である。ピーク時は効率の悪い発電所を動かしているため、ピーク時の需要を抑えると、供給側の効率が上がる。ピークシフトが進むようなインセンティブを与えようというものである。</p>
副座長	<p>政権は代わったが、この文言を見る限りは大きな変更はないように思われる</p>
I 委員	<p>先日、自民党に説明したところ、第三段階に向けて「2015年に法案を提出する」というところを「2015年をめざして～」に修正されたと聞いているが、本体は変わっていない。</p>
副座長	<p>本懇談会の大きな目標は、杉並区で地域分散型エネルギー社会をつくることであり、日本全体のエネルギー政策や電力システム改革と密接不可分である。</p>
H 委員	<p>ビジョンの内容を杉並区全域で均一に実施するのは難しい。また、スマートコミュニティがどういうもので、どのようなメリットがあるのか、将来、自分たちの生活にどのように関わってくるのかなどが区民にリアルに伝わらないまま、あちこちで散発的に進めても、杉並区をスマートコミュニティや分散型エネルギー社会にしていこうという盛り上がりにつながらないのではないかと。例えば、ごみの問題では、杉並区に清掃工場があったので、ごみの減量などについて</p>

	<p>リアルに勉強することができた。そのことで住民意識が高まった。このように、スマートコミュニティが杉並区内で実際にできることを示すような社会実装を一定の期間内に行っていく必要がある。今後を考えると、永福町、下高井戸から久我山くらいまでの地域は杉並区が発展するための様々な条件が整っている。放射5号線沿線や高井戸公園などに新エネルギーの考え方を導入・整備することで、区民は新エネルギーを実感でき、「自分の家でもやろう」という実践の意向も出てくると思われる。それには、東京都の協力も必要である。都と区のまちづくり施策が、地域エネルギービジョンを共通認識として進むように都に働きかけていく必要があるのではないか。</p>
事務局	<p>東京都環境局だけでなく、まちづくりと関連してくるところであれば、都市整備局とも話していかなければならないと思う。区の財源だけでできることは限られているので、国や都の事業とどのようにマッチングさせていくかが大事である。</p> <p>また、一方で区は木密住宅地域の不燃化促進を行っているが、さらに促進させるための誘導策として、エネルギー施策を活用できないか検討している。</p> <p>区だけでできることではないが、区も将来構想を持たなければならない。ビジョンでは区が持っている夢を描かせていただいた。</p>
H委員	<p>放射5号線については地域住民から賛否あるが、整備計画が進んでおり、道路周辺に地区計画を適応していくと聞いている。地区計画の主体は杉並区であり、放射5号線の周辺であれば、p.30の絵のようなことが10年以内の実現できるのではないか。木密住宅の建て替えは、都と区が40年近くかけて行っている。今後も続けていくことになるのだろうが、もっとドラスティックに工程表を掲げて、具体的なスマートコミュニティの地域を設定して進めていくことで、ビジョンにリアリティが出てくると思われる。</p>
副座長	<p>一般論で終わるのではなく、具体的な場所で具体的な事業を行っていくように繋げていかなければならない。</p> <p>スマートコミュニティの先導モデルをつくるという話だと思う。</p>

事務局	<p>(p. 28) 「(取組6)先導モデル事業の選定・具体化」 「(取組7)地区計画制度などを活用した街区のスマート化の誘導」では、都市整備部とやり取りしながら話を進めており、今後もそのように取り組んでいきたいと考えている。</p>
F 委員	<p>(p. 21) 「エネルギービジョンの目標と体系」にある「重点事項3 区民出資型による再生可能エネルギー整備の仕組みづくり」について、公共施設に太陽光パネル等を設置し、そこに区民が出資していく取り組みを具体的に進めていただくことは大変良いと思う。西荻窪の地域などでは高齢化が進んでおり、「自宅に設置するのは年齢的にもったいない」と考える人も多いが、環境などへの意識は高いので、出資型という形であれば創エネに参加すると思う。災害時の救援所となる学校の屋上は、既に緑化されている学校もあるが、太陽光パネルも緑化と同じように遮熱効果も期待できる。設置した学校を中心にモデル地区として、住宅にも太陽光パネルをつけていくことでスマートコミュニティができていくのではないかな。</p> <p>一般住宅での太陽光発電設置は、地方では進んでいるが東京では普及のスピードが遅い。屋根面積が狭く、隣家と接しているので、まず公共施設で整備をする。学校は避難拠点であるし、近所の学校に太陽光発電があり実際に見ることもできるとなれば、徐々に周辺の住宅にも波及していくことが期待できる。</p>
副座長	<p>杉並区で出資型の仕組みをつくった場合、多くの区民が参加しそうな感触はあるか。</p>
F 委員	<p>そういう気持ちの方は多いと思う。杉並区には、リタイヤしていてもそれなりの立場の方が多く住んでいて、高額の年金をもらっている。自分はもうそんなに長く生きないから、子どもの代になれば自宅を建て替えるなどの理由で、自宅への設置を躊躇されている方も多い。出資ならできるだろう。</p>
J 委員	<p>3月3日にドイツのエネルギーの勉強会を行った。参加者は約60名おり、アンケートを行った結果、かなりの割合でエネルギーと資金の自立型の仕組みが手本になるのではないかという意見が寄せられた。ビジョンの出資型の仕組みは、杉並区ではかなり反響があるの</p>

	ではないかと思われる。
A委員	<p>(p. 23)「区民出資型による再生可能エネルギー整備の仕組みづくり」の一番の鍵は分配金だと思う。より儲かる仕組みにした方がよい。これは太陽光でなくてはいけないのか。節電が目標であれば、費用対効果は省エネの方が良いはず。区の施設の省エネに資金を活用し、省エネによって削減された光熱費分を分配金に加えて区民にキックバックする仕組みがあっても良いのではないか。</p> <p>(p. 26)「未利用エネルギー等の活用を推進する」とあるが、ここでの未利用エネルギーは何を指しているのか。</p>
事務局	未利用エネルギーは、下水熱や上井草の浄水場での小水力等を想定している。所管が東京都など区以外であるため、明記していない。
A委員	具体性のある内容は、現段階では書けそうにないのか。また、「研究」「検討」などとあるが、産学官連携で具体の調査を行うような予定はないのか。
事務局	<p>未利用エネルギーに関しては、まだ具体的なところまで進んでいない。重点事項としているファンドなどの話については、行政の硬い頭でやるよりも、行政が支援をしながら産学や市民活動でやっていただく方が良くもしい。</p> <p>また、公共施設については、耐震がネックとなっている。屋根面積は多くあるが、パネルの加重に耐えられるものは少ない。今後の技術革新等も見据えて、民間の知恵も借りながら進めていきたい。</p> <p>4月4日18:30~20:30に、太陽光発電所ネットワーク東京地域交流会の事務局長の田中実さんが幹事となり、既に市民出資型の太陽光発電を設置している団体と、それをやりたい地域の方々が集まってファンドの勉強会が開催される。そのようなところとも情報交換を行っていく予定である。</p>
B委員	<p>(p. 17)アンケートの「どのような再生可能エネルギーを推進すべきか」という問に対し、1位は太陽光で、2位はバイオマスである。杉並の地域特性は住宅が多いことなので、住宅から出る剪定枝や食品残渣(ごんさ)なども含めて、どのようにバイオマスを活用するのかも考えていく必要があるのではないか。剪定枝は焼却場で</p>

	<p>トラブルの原因になっており、できるだけ焼却場で燃やしたくないという話も聞く。ローカルで再利用できる可能性があるのではないか。全体的に電気の活用のメニューが多いが、電気は身近なようで身近ではない。バイオマスをボイラやストーブに使うと、火を見ることは情緒的にも訴えられるので、そのようなメニューがあっても良いと思う。</p>
副座長	<p>杉並区だけでは難しいので、様々なところの協力を得てやっていくことになるだろう。</p>
事務局	<p>一昨年、区で利用できるエネルギーは、太陽光の他はバイオマスであるということで、城南島へ見学に行った。剪定枝を収集し、区内で乾燥させるとなると臭いの問題が生じるので、現実的には城南島まで運ぶことになると考えるが、運搬に係る費用を考えると、高井戸清掃工場で燃やし、バイオマス分をFITで売電したほうが良いという検討で終わっている経緯がある。それにしても、太陽光の次にバイオマスを選定していることについては、区民はきちんと地域特性を把握していると思う。</p>
C委員	<p>杉並の特徴は“地域力”である。地域力の1つは商店街である。商店街の連合会や、商店街の活動をコーディネートする市民団体がある。スマートコミュニティのモデルとして、商店街モデルがあっても良いのではないか。</p> <p>推進体制として、エネルギー相談所の設置があっても良いと思う。</p> <p>交通では、自転車も有効な手段である。公共交通の利用の項目に自転車も加えていただきたい。</p>
事務局	<p>ビジョンの中でも、何を優先してやるのかというメリハリを付けることが大事である。自転車については今後検討させていただきたい。スマートコミュニティについては、どうしても「まちづくり」という視点で地域単位で考えてしまうところがあるが、商店街という単位も可能性としてはあると思う。耐震の問題はあるだろうが、例えばアーケードの上に太陽光パネルを設置するということも考えられる。例示として地区計画と書いてあるが、商店街なども含めて考えていきたい。</p>

副座長	(p. 32) 杉並版エコポイントなどについては、商店街と一緒にやることを考えているのではないか。
F 委員	<p>商店街は7ブロックに分かれている。西荻窪商店会連合会は23の商店会が所属し、30年以上前から活動している。商店会としては、街路灯のLED化を進めている。太陽光パネルを載せるとなると、近隣商業地域で10mの高さ制限があり、小さい商店が多いので条件的には難しい。一方、阿佐ヶ谷のパールセンターや高円寺のパール商店街はアーケードがある。アーケードのために高い商店会費を払っていることに加えて太陽光パネルのコストを負担するのは厳しいので、ファンドなどを活用できると出来るのではないか。</p> <p>なお、電気商業組合では、クールネット東京と年1回以上の研修会を実施し、省エネ機器の最新情報等を学んでいる。そこで得た知識を区民にお伝えし、省エネの意識付けができるとう良いと考えている。</p>
事務局	<p>今回の区民アンケートに回答いただいた方のうち約500世帯にご協力をいただき、2年間のエネルギー使用量のデータを提供いただいた。それをグラフにし、世帯構成別、住宅床面積、主な使用家電を記載して返信した。その500世帯の方に毎月実施している省エネ相談会に来ていただくと、お渡しした資料に基づいて、どのように省エネを進められるのかをご提案することになっている。アンケートにそのような事項をプラスした。今後も引き続き、相談件数を増やすような取り組みを行い、相談力をアップしていく。</p>
L 委員	<p>スマートハウスやスマートコミュニティは、新築や更地などでは実施しやすいが、既築では太陽光は耐震の問題があるし、高効率給湯器も設置場所等の問題がある。一方で、ランドマーク的なものも必要と思われる。杉並区で新しい公共建物を建てる時には、エネルギービジョンに沿った建物を建てるということをまず宣言する。また、それをこれからどこに建てるということを明記すると具体性が出てくるのではないか。</p> <p>杉並区ではファンドが目玉になると思う。多くの資金を集めるために、区民だけでなく区内の事業主にも出資を働きかけてはどうか。ファンドはどのくらいの資金と分配金を予定しているのか。</p>

事務局	<p>ファンドの資金は、どれだけのスペースに太陽光パネルを設置できるかとリンクする。現段階では、スペースの確保を先行していくつもりである。</p> <p>区の施設を建て替えていく時には、このエネルギービジョンに沿ったものという件ですが、今後は再生可能エネルギーや非常用発電設備を設置していく方向で進めていきたいと考えている。平成25年度に完成する大宮前体育館には、太陽光パネルと非常用発電設備を設置することになっている。</p>
L委員	<p>ファンドで太陽光パネルを設置するのは限られる。もう少し広い用途に対応できるようにしたり、区の次世代育成基金と同様に区内のエネルギー関連に使用する寄付や基金も考えてはどうか。</p> <p>ビジョンを実施できたかどうか、計画の見直しも含めたチェック機能が必要ではないか。</p>
I委員	<p>FITは来年度から買い取り価格が下がるので、スピードが大事である。どれだけの屋根が確保できるか分からないという現実的な問題はあろうが、早く実現しないと、それだけのリターンが見込めなくなる。リターンを多く得て、その一部を杉並区のエネルギーの次世代に繋がる取り組みに助成金として回すなどの使い方が大事である。そのためにも、この部分はスピード感を持って進めてもらいたい。地域活性化から考えて、商店街のポイントで使える形に戻せば、地域の事業主がファンドに参加するインセンティブにもなるのではないか。そんな仕組みも考えてほしい。</p> <p>スマートコミュニティは、ハードとソフト様々な要素でできており、エネルギーマネジメントとデジタル化が特に大事になってくると思われる。BEMSやHEMSの話の冒頭にも書いてもらいたい。</p> <p>(p.20)「モデル地区指定によるスマートコミュニティづくり」とあるが、具体的にどこを想定しているのか。ビジョンで将来像を描くと共に、実現されていくことが大事である。ビジョンを形にして実績を上げ、そして区民に理解してもらおうというサイクルを作ってもらいたい。その部分のフォローについては、我々も協力していきたい。モデル地区の選定の仕方として、1つは、杉並清掃工場の近くは特徴的なエリアとなり得る。また、スマートコミュニティと言っ</p>

	<p>た場合、エネルギーだけでなく、交通、医療・介護のデータも載せていくという考え方になっている。省エネが実現しても、それだけでは区民にとって魅力が乏しいともいえる。省エネ+医療・介護などの方が、区民にとっても魅力的である。医療・介護などとも組み合わせられる地域を選ぶと面白い実装事例になるのではないかな。</p> <p>実装には非常に大きなコストがかかる可能性がある。国・都・区の公共の財源を使用することも考えられるが、それだけでは厳しいので、エネルギー事業者やデベロッパーなどの民間の力をいかに活用するか工夫されると良い。エネルギー事業者にとって、省エネ自体は魅力に乏しいが、新しいエネルギーシステムが始まることは魅力だ。また、デベロッパーにとっては事業を公共機関が後押ししてくれること、公共機関の発行するラベリングを活用できること、区とタイアップできることは魅力的である。</p> <p>いろいろなものを組み合わせて、民間活力を上手く使いながら実物件を進める事が重要だ。</p>
副座長	<p>ファンドを作るときに、市民だけでなく事業者も含めるなど、視点を広げることが大事である。また、スピード感も大事である。ビジョンを見ると、全体の構成や項目の整理等は良くできているが、どのように具体化し、進捗をどうチェックしていくかが問題である。ビジョンには「検討する」「推進する」と書かれていて、勿論、区の保健福祉、防災やまちづくりなどの分野にも計画があるので、それに関わることについては庁内の調整が終わらないと進められないのはわかるが、それを待っているとスピード感が無くなる。区民ファンドをつくって目玉にするのであれば、「検討する」と記載するのはいかなものか。これだけはやってもらいたいということがあれば、委員の皆さんにこの場で提案していただき、それを踏まえて議論していただきたい。</p>
H委員	<p>杉並区にはファンドが最も合っていると思うので、いち早く実現してもらいたい。やる気になれば来年度にも形が見えて、平成26年度から実施できるのではないかな。また、東電グラウンドの整備の際には、エネルギービジョンに基づく省エネ、創エネ設備を象徴的に導入し、それをきっかけに広げてもらいたい。3年くらいで是非実</p>

	現してもらいたい。
事務局	絵に描いた餅にならないように具体化をしていかなければならないという問題意識を持っている。特に急がなければならないのは震災対応だと思っている。ファンドは、周囲の方の意識が高く、事務局の方が追いついていないというのが率直な感想である。課題も多く、実際にできる場所を調べていくとなかなか該当する所が出てこない。もう少し間口を広げてやっていきたい。重点事項は何とか軌道に乗せたいと考えている。
副座長	具体的な事業をスピード感を持って進めていこうという話に集約されてきた。これからの行政の手順をどのように考えているのか。
事務局	今回のビジョンは将来構想的なもので、具体的なところまで書き込めていない。ビジョン確定後に、具体的な事業について予算化して進めていく。それが新年度の途中からか、翌年度になるかは事務局も詰め切れていない。いつどのような内容をやっていくかは、他のセクションとも調整しながら進めていく。
副座長	<p>区長選挙が来年7月にある。政治的には、それまでに具体策を出していけると望ましい。</p> <p>ビジョンをつくったのに予算が付かなかつたら困る。進行管理ではなく、ここに挙がっている重点事項等を一覧にして、これらをきちんと検討してもらえよう懇談会から区に要望し、今後それがどうなっているか教えてもらいながらどうしていくべきかこちらでも検討するとしてはどうか。</p>
L委員	杉並区民は杉並区に非常に愛着があり、「杉並のためだったら何とかする」という方が多い。そういう人たちが参加したいと思うようなものを入れていただきたい。この中では区民出資型はとても魅力的である。杉並区を愛する区民が参加できるエネルギービジョンというのを全面に出せると良い。
事務局	F I Tの単価も年々下がってくるので、鮮度が勝負であることは重々承知している。
副座長	ビジョンの修正については事務局に任せたい。今後のスケジュールはどうなっているのか。
事務局	今回の懇談会の意見を踏まえてビジョン案を確定し、パブリック

	コメント（平成 25 年 4 月 21 日～5 月 20 日）を実施する。その後で もう一度、懇談会を開催させていただきたい。
副座長	懇談会として具体的に実施してもらいたい項目などについて、次回 の懇談会で相談してはどうか。
事務局	今回はパブリックコメントにかけるビジョン案作りのためのご意 見をいただくもので、次回の懇談会はパブリックコメントを受けて 手直ししたビジョン案に対してご意見をいただき、その後、区がビ ジョンの最終決定を行うという流れになる。
副座長	その段階では、具体的事業についても強弱を付けてやっていく形 になっているということで良いか。また、それ以降の進行管理の チェックやフォローなどをどうするかということも併せて検討する ということで良いか。
事務局	区には環境清掃審議会というエネルギーも含めた環境全体の政策 について意見をいただく組織がある。チェックについては、そちら の組織を活用するのか、エネルギー個別の組織を作るのか、もう少 し検討させていただきたい。
副座長	環境課だけで頑張るのは大変なので、区全体で進めてもらえるよ うに、我々も協力していきたい。
I 委員	「モデル地区指定によるスマートコミュニティづくり」のモデル 地区は、具体的に想定している地区はあるのか。
事務局	ビジョンの中では木密住宅地域や地区計画があるところとしてい るが、本日の懇談会の意見も踏まえて、具体化する中で考えていか なければならない。具体の場所については、まだ申し上げられる段 階ではない。

(3) その他

区民意見反映手続の実施について、事務局が説明した。

次回の第 5 回杉並区地域エネルギービジョン懇談会の開催日時については、
後日事務局から連絡する。